

月会後援会会員  
315名  
(目標1000名)

あゆみは新しい一ページへ

特定非営利活動法人あゆみ会理事長 佐々木さつみ

寒い寒いといひながら、そここに春のきざし  
も感じられる季節となりました。皆さま、いかが  
お過ごしでしょうか。いつもあゆみを応援してい  
ただきありがとうございます。

昨日はあゆみつ子たちの生活発表会でした。や  
り遂げた子どもたちの誇らしげな顔に、子どもた  
ちが仲間といっしょに育っていくことのすばらし  
さを改めて思っただけで時でした。会場となった二  
階のホールが手狭に感じられるくらい盛況ぶり  
で、あゆみが多くの人に信頼され支えられている  
ことを改めて実感したひと時でもありました。

さて、前回お知らせしましたように、あゆみは社  
会福祉法人たまたご会との統合を検討してきまし  
たが、1月末の臨時総会で統合を正式に決定し、準  
備段階に入りました。これから協議しなければい  
けないことや、手続きしなおさなければならぬ  
ことが多く、それが整理できてから正式に統合す  
ることになります。ただ、合併や吸収ではなくて  
あくまで対等の統合であること、あゆみもおひさ  
まも今までどおりのやり方で(今まで以上を目ざ  
して)今の場所ですべての活動を、あゆみ保育園  
の認可を目指して活動すること、等については双  
方で意見の一致を見ております。

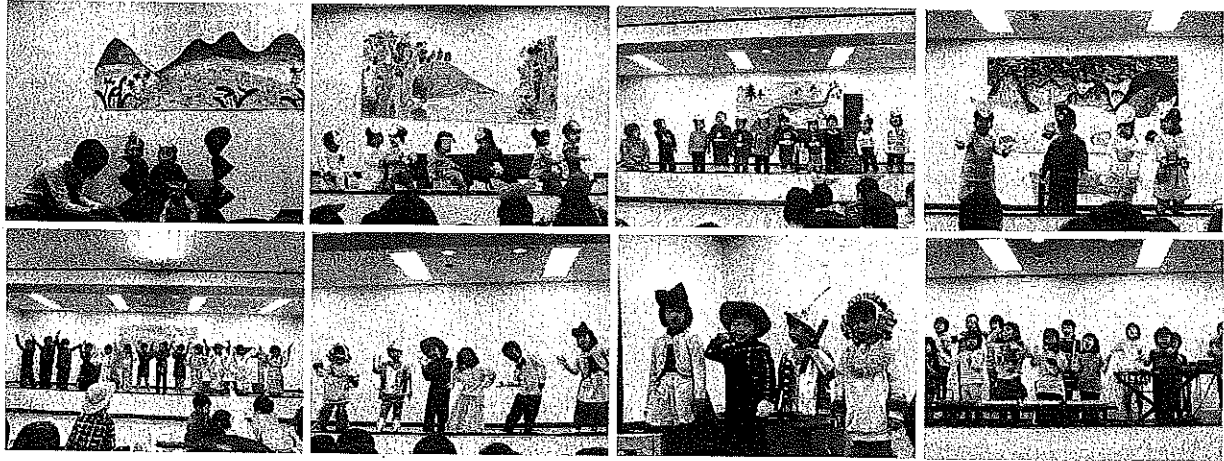
統合したからといってすべての問題が解決する  
というわけではありません。特に認可に向けては  
すんなりいくとは思えず、これまで以上のがんば  
りが必要になってきます。

あゆみは3歳未満児の保育園からスタートし、  
就学前保育、学童保育と活動を広げ、財政の苦し  
い中でも保育の質は常に追求してきました。NP  
Oになってからはおひさま児童デイ、相談活動、  
この四月からはヘルパーステーションさんぽも開  
設します。周りにあるニーズを感じ、皆さんの  
支えを得て続けてきたことばかりです。

あゆみは、たまご会との統合で、保育事業だけ  
でなく、障害を持った人や高齢者も含めた総合的  
な社会福祉事業に向けて、新しいページにあゆみ  
を進めることになりました。経過については続けて  
お知らせしていきます。  
これまでと変わらず応援してくださいませよう  
お願いいたします。

テーマ「お話の世界に入り込んで、楽しく表現しよう」

今年も子どもたちの一年間の成長発達の様子を見ていただく、生活発表会が行われました。  
子どもたちは、生活やあそびの中で、たくさんの共感と達成感を味わってきました。春はどろんこ・さんぽ、夏は水あそび・  
プール、秋は運動会・遠出さんぽ、そして一年を通して集団あそび・リズム等、さまざまなとりくみの中で、友達と教え合い励  
まし合いながら、あきらめないこと・仲間と力を合わせることの大切さを知りました。  
発表会では、個々人の成長はもちろん、クラス集団としての成長がみられ、保護者からも我が子だけではなく「〇〇ちゃんも  
変わったねえ」と他の子どもたちの成長も喜びあえる場となったと思います。  
発表会以後子どもたちは、やりきった達成感から大きくなった自分を感じ、誇らしく自信を持てるようになってきているよう  
すが感じられます。4月から進級・進学する子どもたちが、すこやかにのびのび育って欲しいと願います。



第30回生活発表会 2月16日(日)

日時 2014年3月16日(日) 9:00  
場所 あゆみ保育園2階(おひさまの部屋)  
今年は6名の園児たちが巣立っていきます。  
皆様、ご出席くださり共に祝っていただきますよう  
よろしくお祈り致します。  
一部 卒園発表(竹馬・リズム・けん玉・こまetc)  
二部 卒園証書授与(思い出のことば・歌)

「ヘルパーステーションさんぽ」  
4月1日開設予定  
あゆみ会としての新事業、高齢者・  
障害者の訪問介護事業を開始します。  
※事務所はあゆみの3階です。  
ご家族・知人など、  
ヘルパーを利用され  
る方はいらっしゃい  
ましたら、是非お声  
をかけてください。  
あゆみならではの介  
護事業にしていきたい  
と思っております。  
どうぞよろしく  
お願い致します。



送別会  
中本先生、村上先生、川原先生 送別会のご案内  
日時 2014年3月29日(日) 11:00~13:00  
場所 シティープラザ すぎや(呉市中央3丁目8-18)  
三先生が3月31日付けであゆみ保育園を退職されること  
になり、送別会を企画いたしました。  
※参加費等詳しくは「あゆみ保育園」までご連絡下さい。申し込みは切3月20日

中本静子

ありがとう あゆみ保育園  
あゆみ保育園との出会いは30年前になります。保育士生活は40年になります。あゆみ保育園は、支え人たちが募金を募り手作りで改造した平屋建てで当時は乳児保育だけでした。それが、幼児保育、学童、おひさま児童デイサービス、4月から、介護事業、訪問介護を始める事になりました。いつも、あゆみは子供達と保護者の皆さんと、職員と、OB、地域の皆さんと共に、夢と希望と学習と仲間と愛と笑い喜びがありました。私もそういう素晴らしい文化の中で育ててもらい成長させてもらいました。30年といつてもあつという間で、思いかえしてみれば楽しい事ばかり走馬灯のように思い巡ります。私の三男も産休明けから、あゆみで育ててもらいました。

村上 眞寿美

人生には色々な出会いがあります。私はあゆみ共同保育園に出会えて本当に良かったと思っています。10月あゆみに勤務して初めての運動会。その時は延長保育担当でした。あまり子供たちの日常生活がわからないまま臨んだ運動会で、あゆみの子供たちの競技を見た時驚きました。幼児で跳び箱、登り棒、縄跳び、ができるなんて！それ以上に子供たちが「やらされてるのではなくて、自分の意志でがんばってる」ということに驚きました。0歳児の子供たちも可愛くて応援しているつもりが感動の涙が溢れてしまいがありませんでした。それ以来、あゆみのファンになりました。あゆみの先生が子供たちのため、園のために体を張って頑張っておられること、保護者の皆さんがとて

私が大切にしてきた事は、いつも、まっすぐに向かい合い、チャレンジして、時にはぶつかり合うこともありました。話し合い自分の思いを伝えてきて、相手の思いをしつかり聞いてきて、仲間と一緒に繋がりが創っていくことを大事にしてきました。解り合うこと、共感し合うこと、人を大事に、認め合うことは、自分もまわりも大きく広げられることだと知りました。今年、オリンピックがあり感動がいつぱいです。浅田真央さんは、ショートスケートの失敗があったからフリーが成功できた、100%の演技をえて選手生活をおえると言われました。私もあゆみ保育園をいっばい幸せ感と達成感を持って介護の道へと進みます。これからも応援よろしくお願ひ致します。皆さまに感謝します。あゆみは、私の宝物です。

も協力的であることも驚きました。そして、OBの方が熱心にささえておられること、保育園自体が一つの大きな家族のようなとてもいい園だと思えました。私でも役に立つことがあれば、という気持ちで今日まで来たような気がします。子供たち一人ひとりが持っている力とそれをその子の発達段階に応じて引き出そうと保育され、常に勉強されている先生。あゆみならではの思いです。今年度乳児の担任をさせていたのですが、子供たちから学ぶことがたくさんあります。先輩の先生方にアドバイスを受けながら、子供たちのやりきった時の達成感を一緒に喜べる幸せを日々感じています。保育は今年度で終わってしまっても淋しいのですが、今度は介護部門であゆみの役に立てるように中本先生と頑張っ行ってこうと思ひます。ありがとうございました。そしてよ

あゆみ ねんらくちゅう



発表会がんばったねパーティー—みんなでクッキング— 2月18日 (火)

メニュー・クリームシチュー・焼きそば・ハンバーグ・おむすび



おいしかったよ!



発表会の様子・保護者の皆さんの感想を載せた通信を読んでも、またお母さんのお母さんが、感想を書いてくださっていました。

- ・「みんなの感想を読んだり、通信を読み、本当に子供たちが成長したんだな〜と感じました」
  - ・「うちだけでなく、どの家庭にも発表会に向けて頑張りが、ドラマがあったんだな〜と思いました」
  - ・「我が子とともにクラスの子の成長を感じ、喜んでくださる皆さんにまたまた、感動したおっこで〜す!!」
- (ぞうぐみつーしんより)

あゆみOBリーシーエッセイ VOL.34

「あゆみと私」

—「好奇心の芽」を大切に—

平田 佳代子

次男があゆみを卒園して、もうすぐ1年経ちます。次男は生後8週の赤ちゃんの時から、あゆみで成長してきました。現在は学校大好き、友達が大好きな小学1年生です。とにかく学校で友達と一緒に遊びたい！朝も、誰よりも早く学校へ行って遊びたい。毎朝7時過ぎには「行ってきます」と家を飛び出し、学校までの道を急ぎで駆ける。当然学校はまだ開いていなくて、校門が開くのを待っているそうです。次男の中では「いかに早く学校へ行って遊ぶか」が目標のようです。今では、毎晩翌日に着る服に名札を付けておくのはもちろんの事、靴下を履いて寝る用意周到さ。「そんなにしてまで遊びたいか」と母も呆れ顔です。

次男が考える「誰よりも早く遊びたい目標」を達成するための工夫は、まだまだあります。学校で、連絡帳に翌日の時間割を書いた人から自由に遊んでもよいのですが、次男はここでも「誰よりも早く遊びたい！」思いが強く、前日の夜に翌日の時間割を書ける所まで家であらかじめ書いておき、当日学校で少し書き足せば良いように用意しているではありませんか。ここまでくると、母も「おお、考えているなあ」と感心。今では連絡帳の間に下敷きと鉛筆と消しゴムがセットされ、すぐに連絡帳が書けるようにまとめられてランドセルに入っています。これを見つけた時「自分の目標を達成するために、自分で考えて工夫を編み出せるのはすごい」と母も大笑いしました。(でも鉛筆と消しゴムがバラバラになつて、かえってロスタイムになるじゃない?と思つたけど黙っておこう。これも経験。)

子どもたちを見ていて思うのは「子どもは、親があればこれと言わなくても自分がやりたいと思うことは自分でやる」ということ。「子どもの好奇心を引き出すには親が言ってもダメで、子どもがいろんな経験や体験を積んだ中で育つ」ということ。あゆみでは、楽しい事も辛い事を乗り越える大切さも、子ども同士の関わり合いの中でのいると経験することができました。家ではできないような色々な体験をあゆみで経験し、子どもが持つ好奇心を大切に育ててもらったのだと感謝しています。将来子どもたちが社会へでた時、この好奇心が生きる力となり、きっと子どもたちを支えてくれることでしょう。

今、次男は好奇心の方向性がかなりズレている感があります。が、「まあ、楽しく学校へ行って、友達と仲良く遊んでいるからいい事にしよう」と母は軌道修正の案を考えながら、あゆみで育てていただいた好奇心の芽をこれからも大切に育てていこうと考えています。